

インターバンクの声（2015 年 1 月 7 日）

原油価格の下落に下げ渋る気配が見られず、47 ドル台で昨晚の N Y 原油先物取引を終了。新興産油国の財政に打撃を及ぼすとの懸念が取り沙汰される原油安。リスク回避の円買いが優勢となっているほか、欧米主要株価を中心にした下落が日経平均にも影響を及ぼし、昨年 12 月 29 日以降昨日まで 4 営業日続落。ちょうど 1 年前、期待先行での年明けとなりながらも米北西部の寒波の影響で 12 月雇用統計が 19.7 万人の予想に対し 7.4 万人に留まったことから、雇用統計明けの日経平均は 489 円安と大幅安に。昨日の日経平均の 525 円安は昨年 2 月 4 日の 610 円安に続く大幅安。原油価格がどこまで下げるのか、暗中模索を続ける状況なだけに余計に不透明感が増幅されている状況。昨年の年明けは米北西部の寒波、今年は原油安とギリシャのユーロ離脱説も含めた欧州経済先行き不透明感で始まり、『冬来たりなば春遠からじ』として 3 月以降の天候回復を待った。さて今年は原油安がいつ、どのタイミングで下げ渋るのか、先が見えない状況が続く中でリスク回避の株安、債券高、円高の構図が継続し、昨晚の米 10 年債利回りは 1.95% 台へ下落、ドル円は 118 円 05 銭まで値を下げた。今週末の米雇用統計が相場反発の起爆剤となるのか、このチャンスを生かせるのか、これまでと違った視線での雇用統計に注目したい市場参加者も多いと思われます。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。